

景況動向指数(Diffusion Index)

(2022年10月～12月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業（ 2 0 事 業 所 ）

建 設 業（ 2 0 事 業 所 ）

卸 小 売 業（ 2 0 事 業 所 ）

飲 食 宿 泊 業（ 2 0 事 業 所 ）

サ ー ビ ス 業（ 2 0 事 業 所 ）

＊調査期間 2022年10月～12月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関することの目的で実施した資料です。

＊D I とは？

本報告書の中で％以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が＋（プラス）なら強気（楽観）、－（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$ となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

製造業（2022 年 10 月～12 月）DI 値抜粋

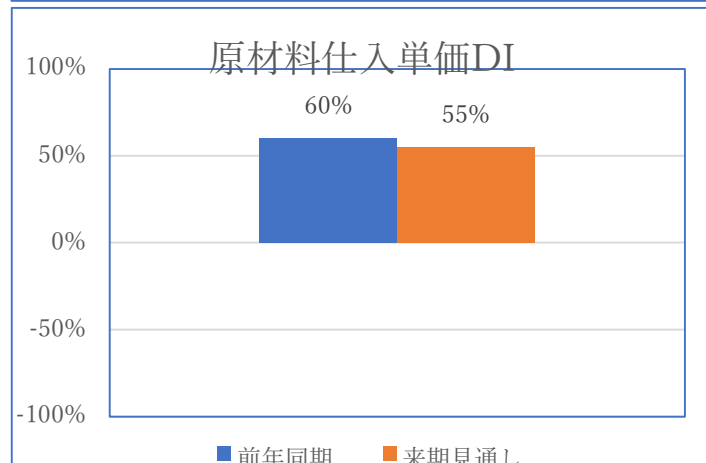
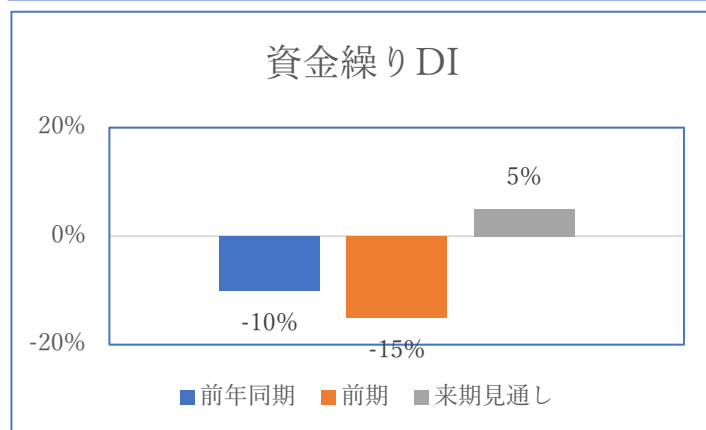
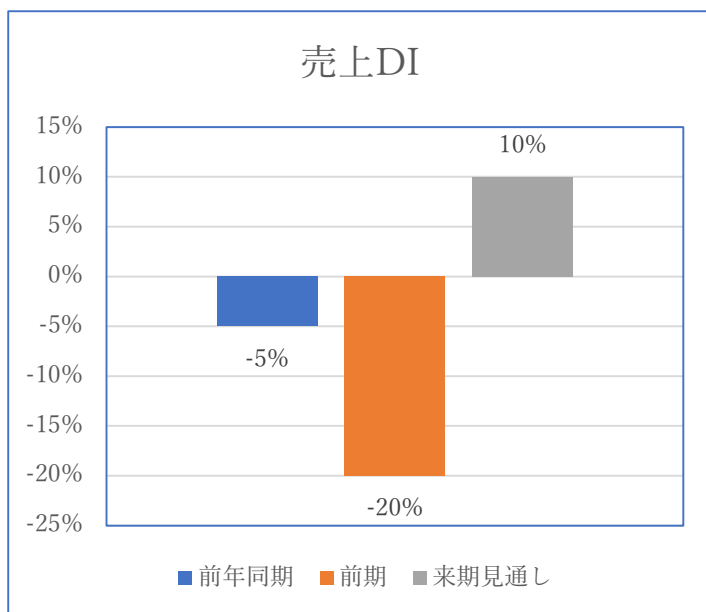
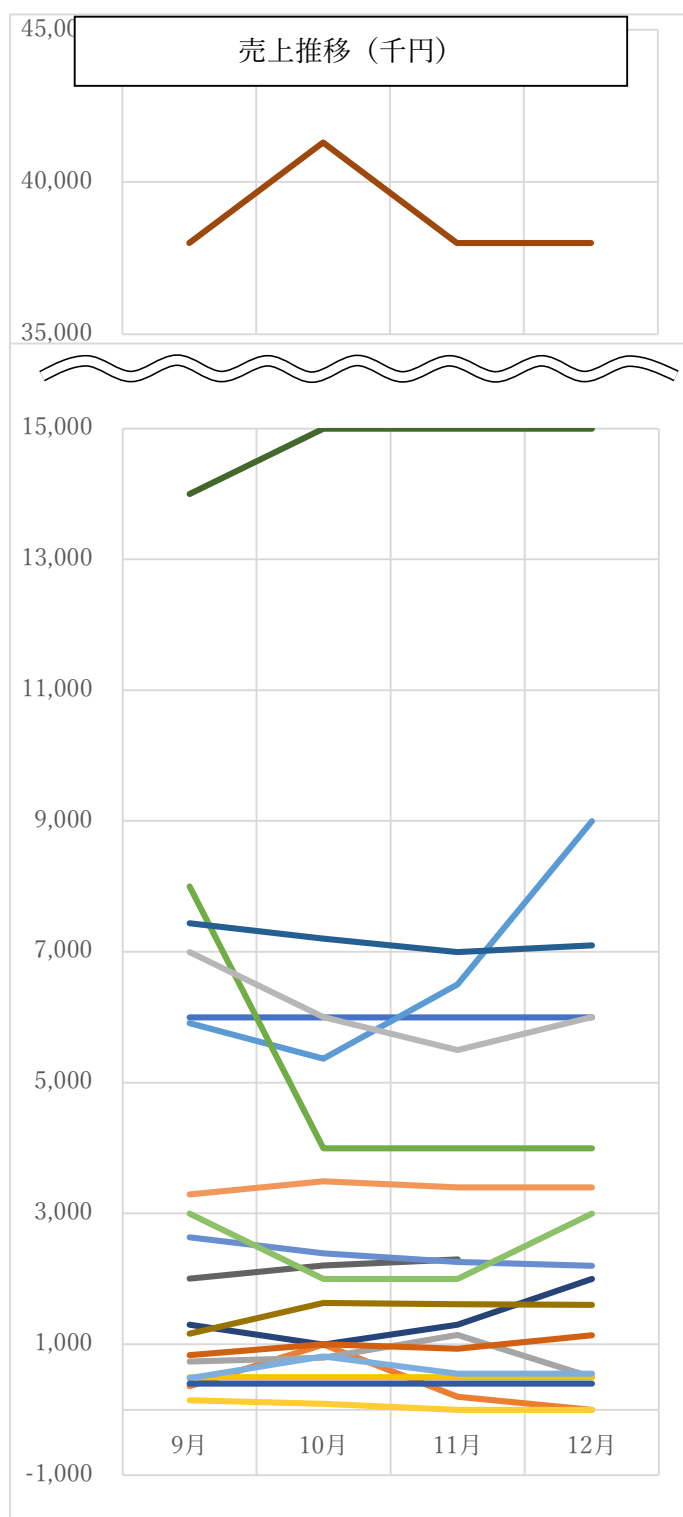
コメント

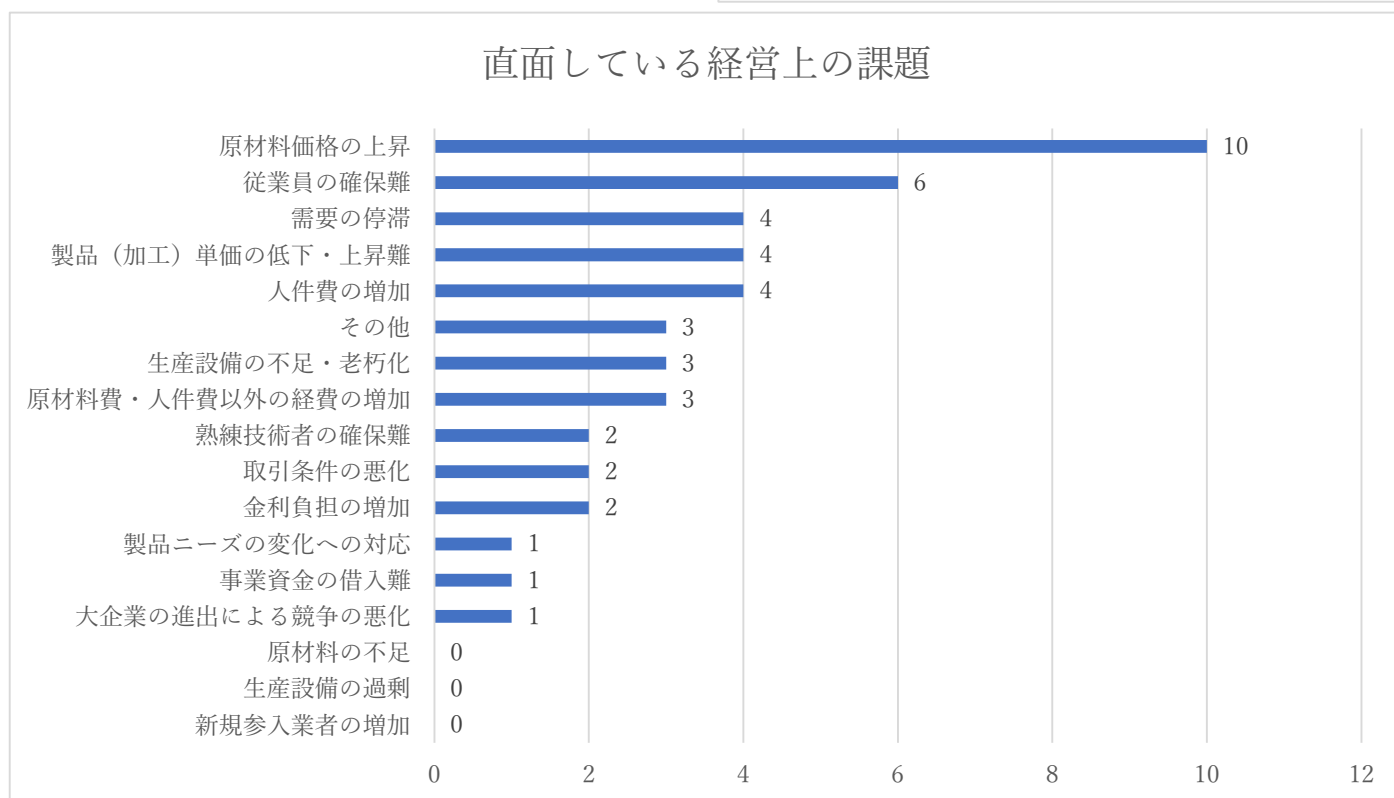
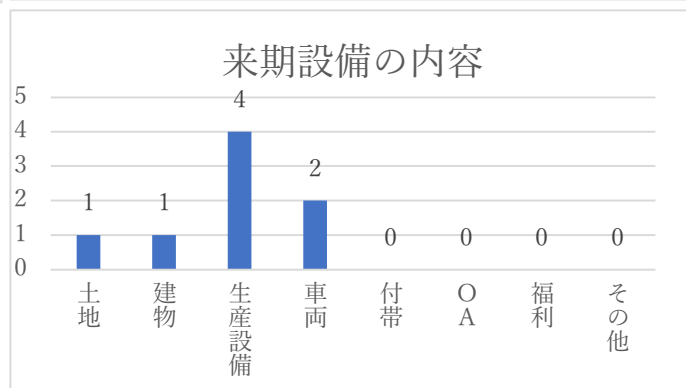
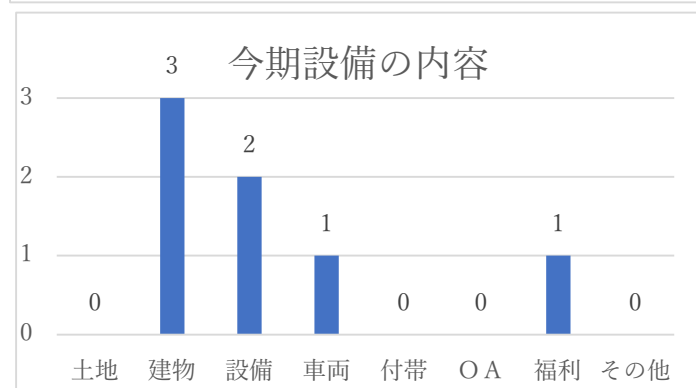
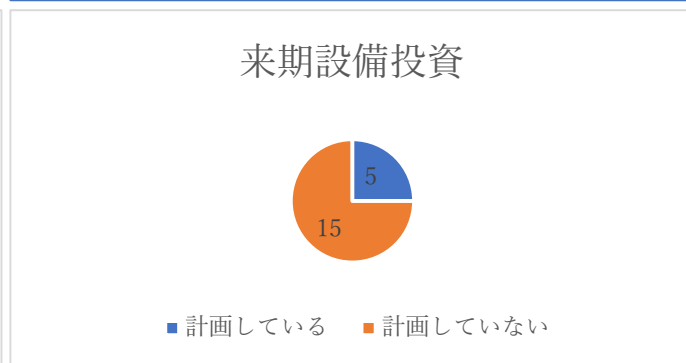
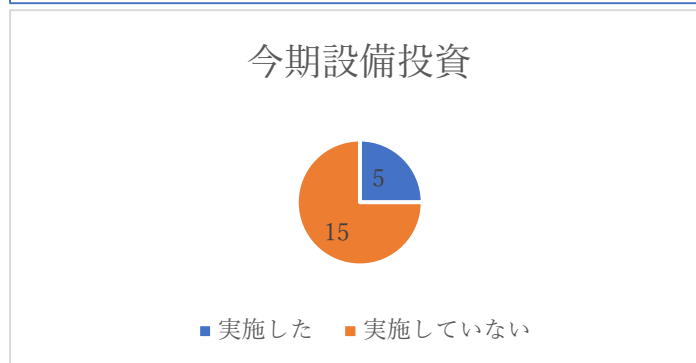
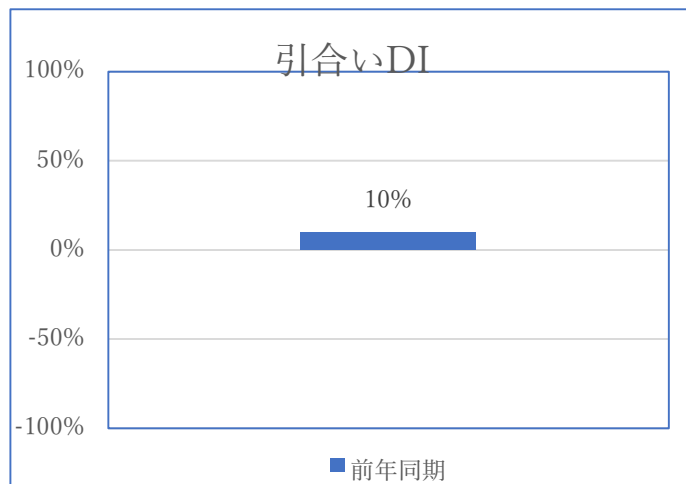
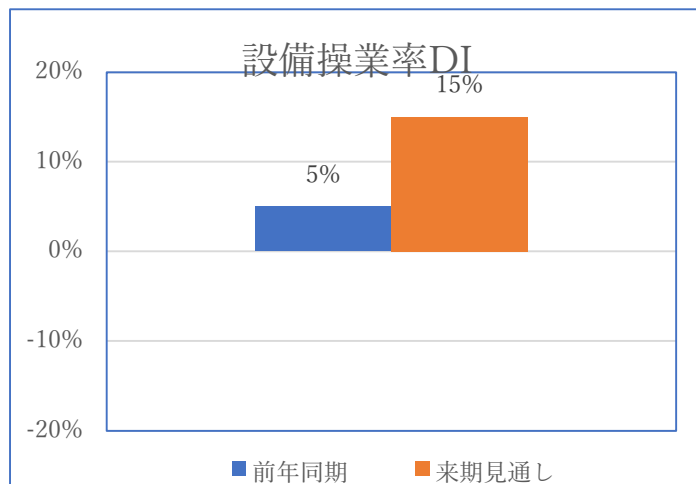
製造業の業績判断にかかるDIは、来期に明るい兆しがあるなかで材料価格上昇の影響が色濃く先行きに不安を感じている企業が多い。

売上DIは前年同期▲5、前期▲20と苦戦が続くが来期見通しで+10と増加見込みに転じている。資金繰りDIについては前年同期▲10、前期も▲15と厳しい状況ながら来期の見通しは+5と下げ止まりの様相である。原材料仕入単価DIの上昇が続き、前年同期+60、来期見通し+55と原価上昇の影響を上げる企業が過半である。引合いDIについては、前年同期+10と若干の明るい兆しである。

設備投資については今期、来期予定ともに他業種より件数が多い。

個別の声として、取引先の生産工場拡大の予定もあり増産の見込みなので当社の工場も移転拡大を考えている前向きな声がある。当社にとって来年10月からのインボイス制度は零細イジメである。ウクライナ紛争、円安等で主要原材料、他副原材料、運賃が高騰して販売価格がついていけない。客足はもとどつつあるが、購入単価は下がっている。原価や経費の価格高騰分の売価への価格転嫁が追いついていない。今後、コロナの影響がどうなるのか、不確定要素も大きい。といった声がある。





建設業（2022 年 10 月～12 月）DI 値抜粋

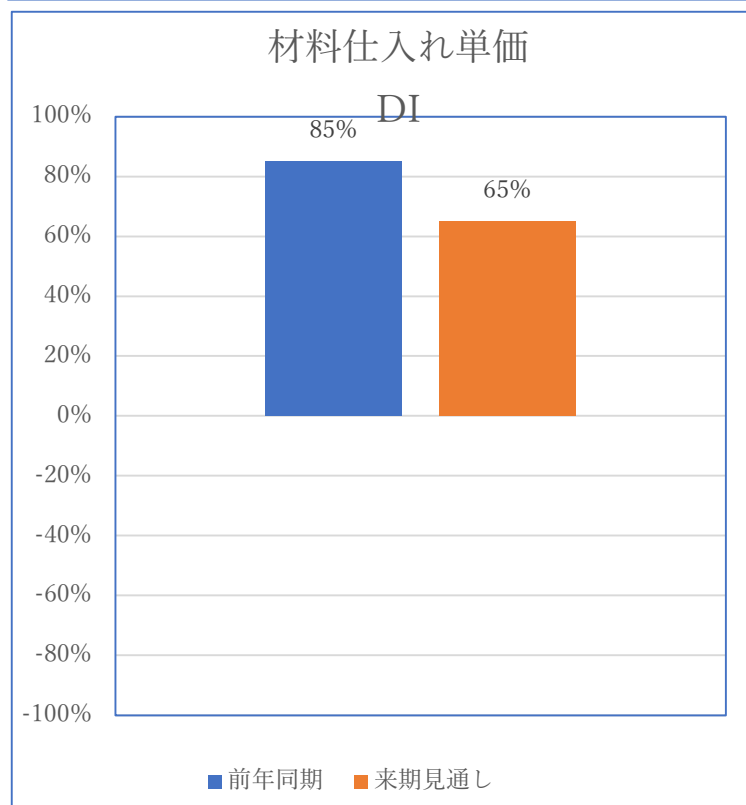
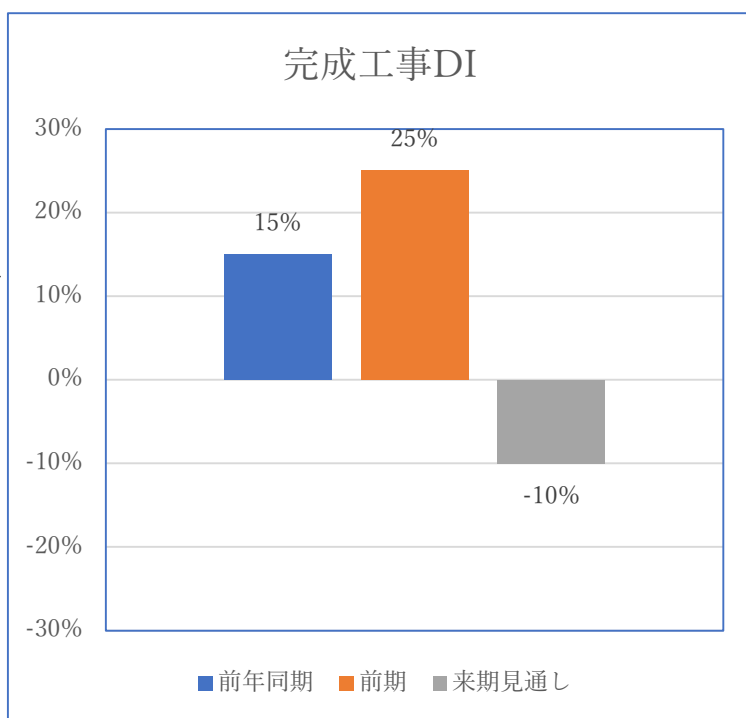
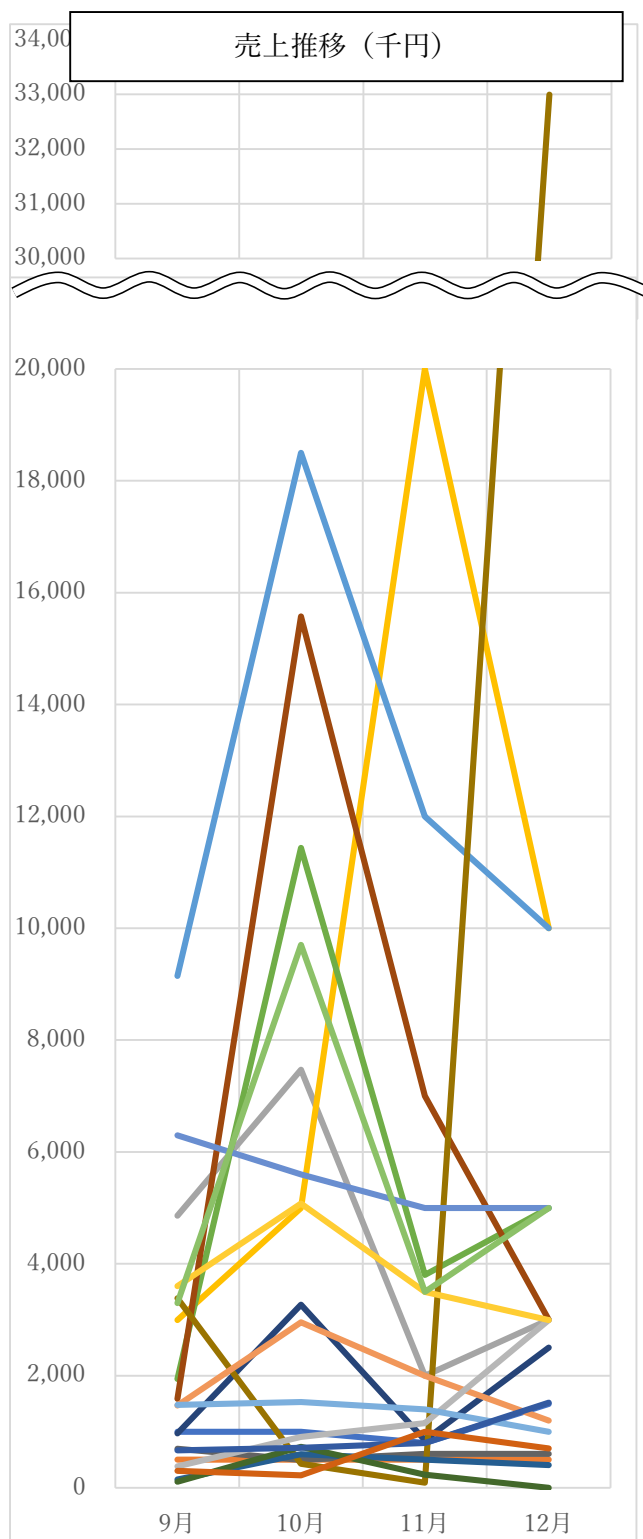
コメント

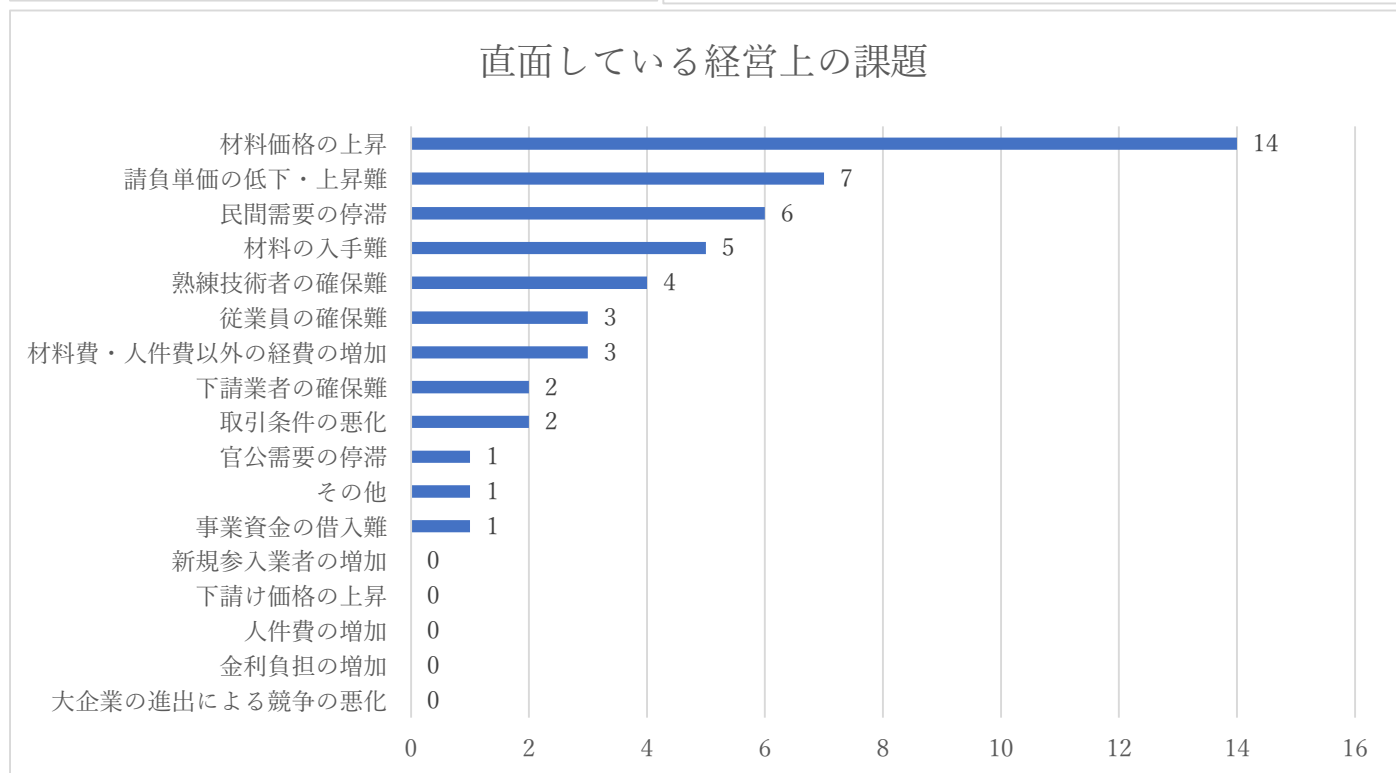
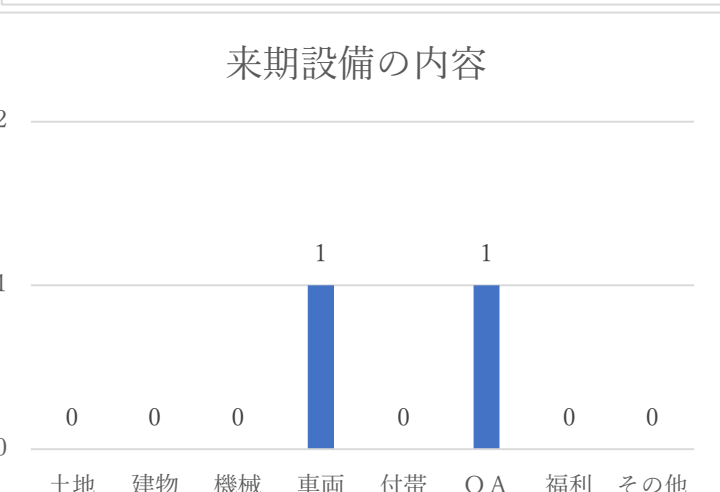
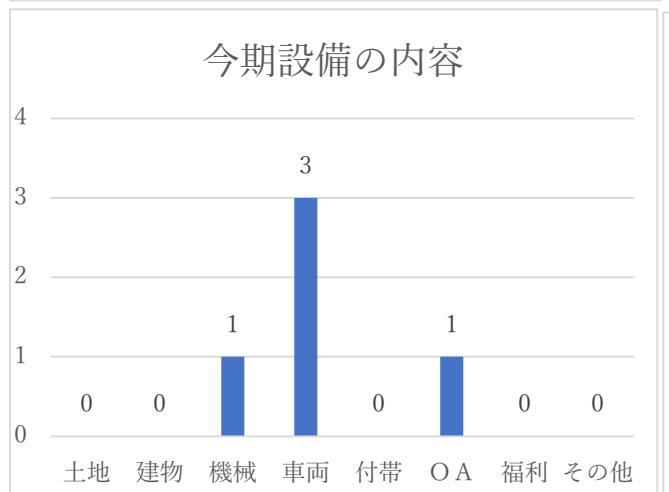
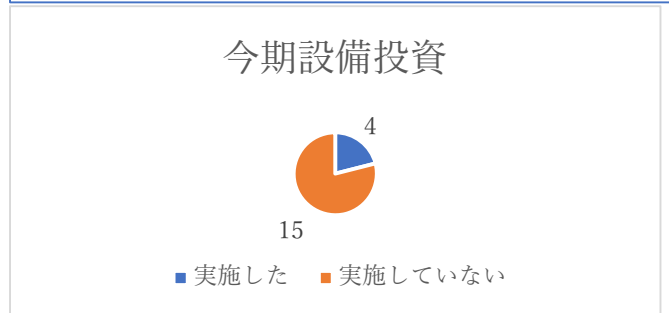
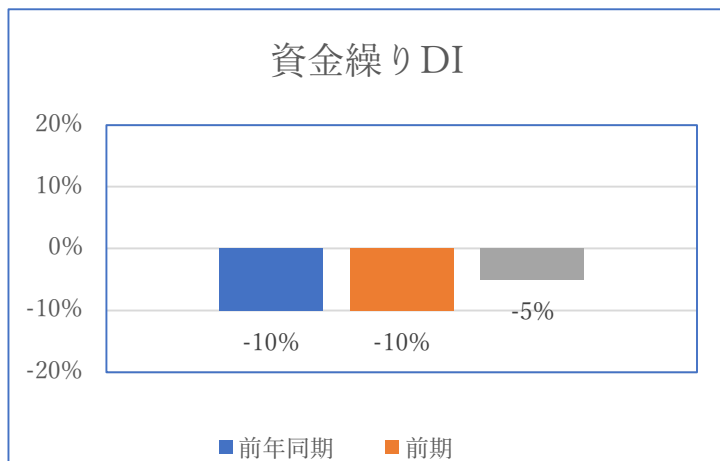
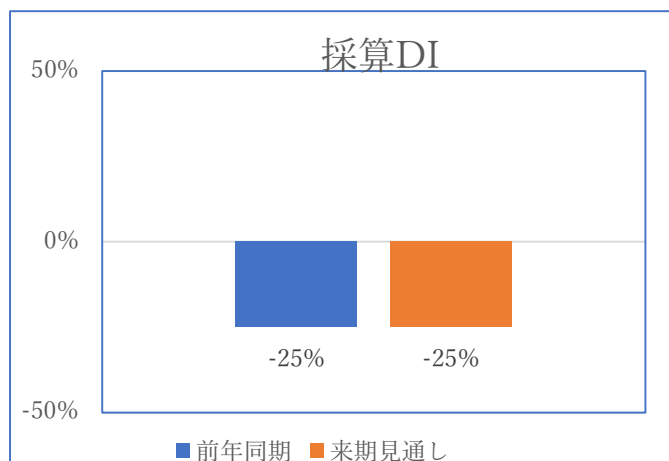
建設業の業況は、受注環境で改善傾向が見受けられるが、原価上昇の影響を上げる声が多く、採算面での不安が継続している状況である。

完成工事高DIは前年同期+15、前期+25 と足元では回復の状況が伺えるものの、今後の見通しは▲10 と先行きの受注が低下する懸念が見受けられる。

材料仕入れ単価DIが引き続き厳しく、前年同期で値上がり+85 大多数の企業において材料の値上がりの影響があると回答している、来期見通しも+65 と材料価格の上昇を懸念する声が大半である。採算DIも前年同期、来期とも▲25 と不安の声が多い。資金繰りも前年同期、前期とも▲10、見通しも▲5 と厳しく、設備投資も低調な状況が続いている。

個別企業の声として、9～12月までの受注は多かったが、来年以降は木造住宅の建築棟数が物価高で下がると聞いているので不安。仕事の引合いは増えているが職人不足で見積価格を上げると値引き要請されるので難しい。毎年あるリフォームの引合いが今年は少ない。今後も新しい職人の確保が難しい、熟練技術者の確保が難しいので仕事を慎重に選ぶ必要がある、といった材料面と人材面に関する不安の声が多い。





卸小売業（2022 年 10 月～12 月）DI 値抜粋

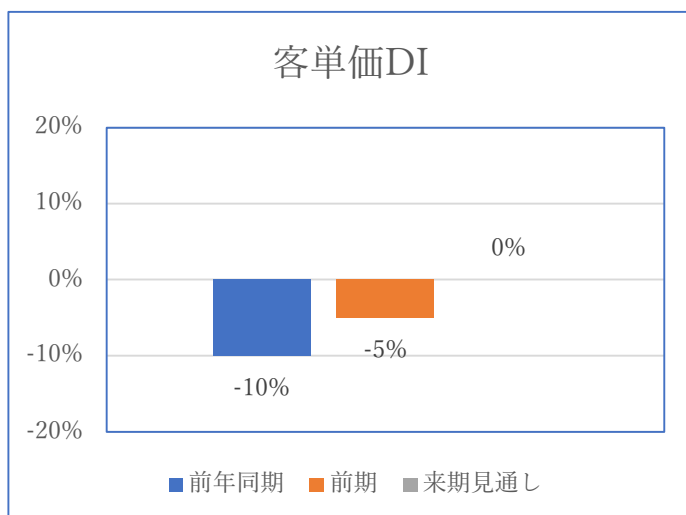
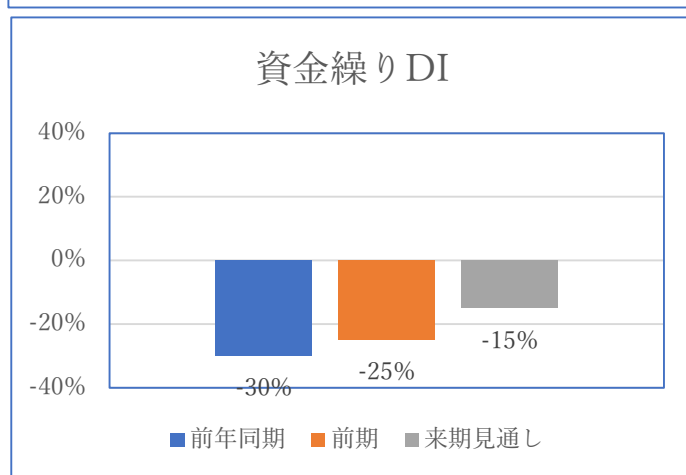
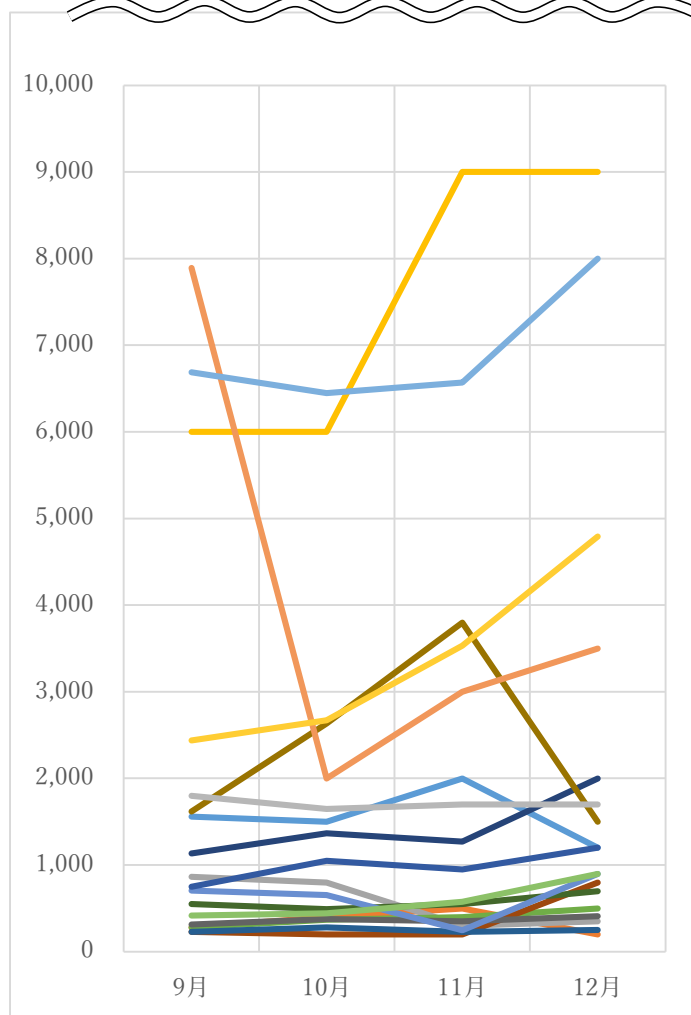
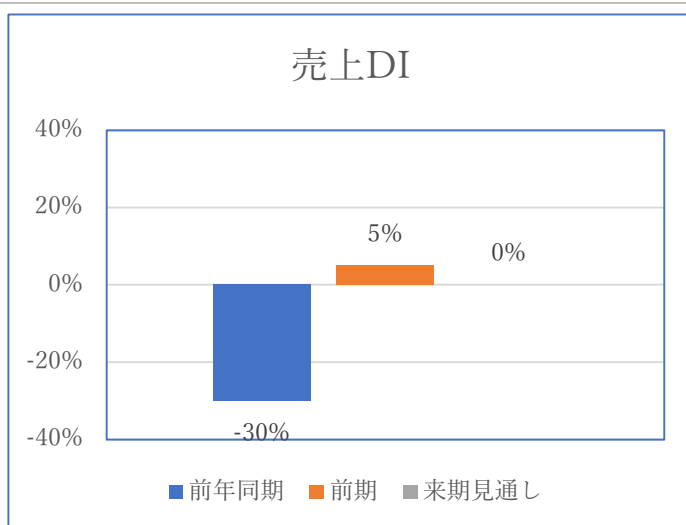
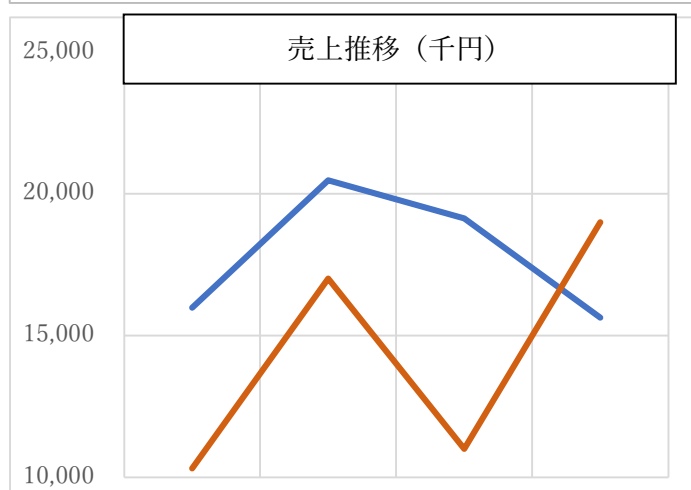
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、コロナ第7波の収束で足元の業況にやや明るい兆しがあるが仕入価格の上昇で資金繰り面の不安が続く状況である。

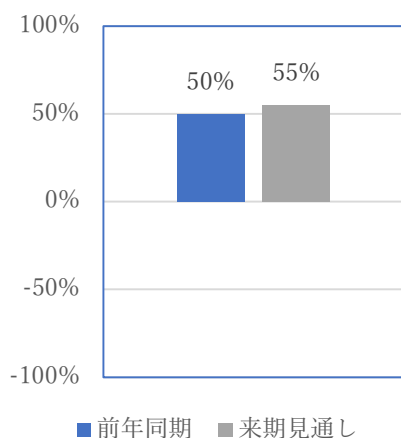
売上DIは前年同期▲30、前期からは+5と下げ止まっている状況で。来期の見通しも±0と他業種と比べて悲観的な声は少ない。

資金繰りDIについては前年同期▲30、前期▲25と厳しい状況が続き、来期も▲15と資金繰り面に不安を抱える声が多い。客単価の減少傾向は前年同期▲10、前期▲5と下げ止まりの様相で、来期見通しも±0と拮抗する見通しである。仕入単価上昇の声を上げる声が顕著で前年同期+50、来期見通しも+55と収益を圧迫しており、業況や採算への影響がつづいている。設備投資は引き続き動きがない。

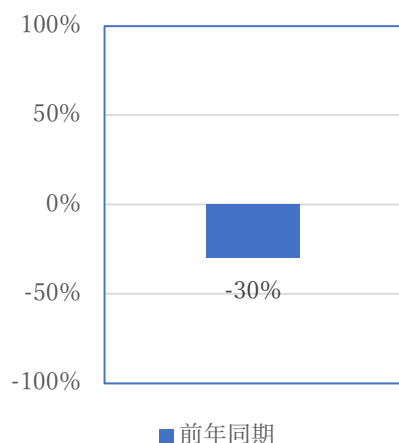
個別の声として、仕入単価の上昇や水道光熱費の高騰などの影響が大きい、コロナの影響で葬儀が家族層になり法事関係の仕出し料理の注文が減少した。ウクライナ情勢や異常気象による、エネルギー需給のひっ迫が懸念される。ひきつづき、仕入価格上昇分の販売価格上のせができてないので利益確保が困難。増収減益がつづく。コロナの影響から少しずつ抜け出そうと努力しており、来客店も少しずつ戻りかけている、など厳しい中にも若干の明るい声も聞かれる状況である。



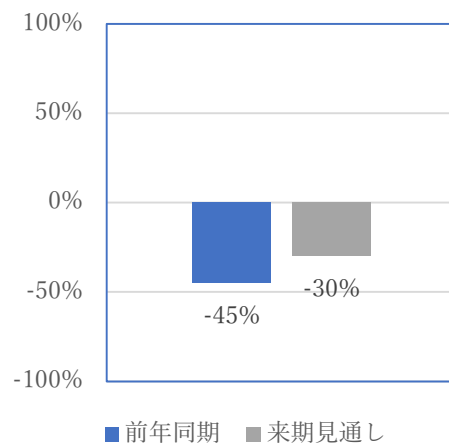
商品仕入単価DI



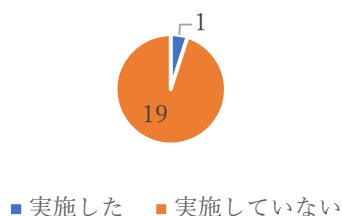
業況DI



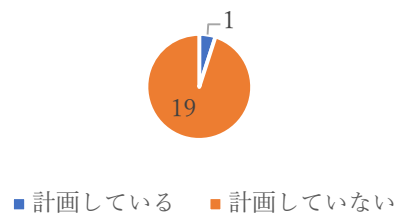
採算（経常利益）DI



今期設備投資



来期設備投資



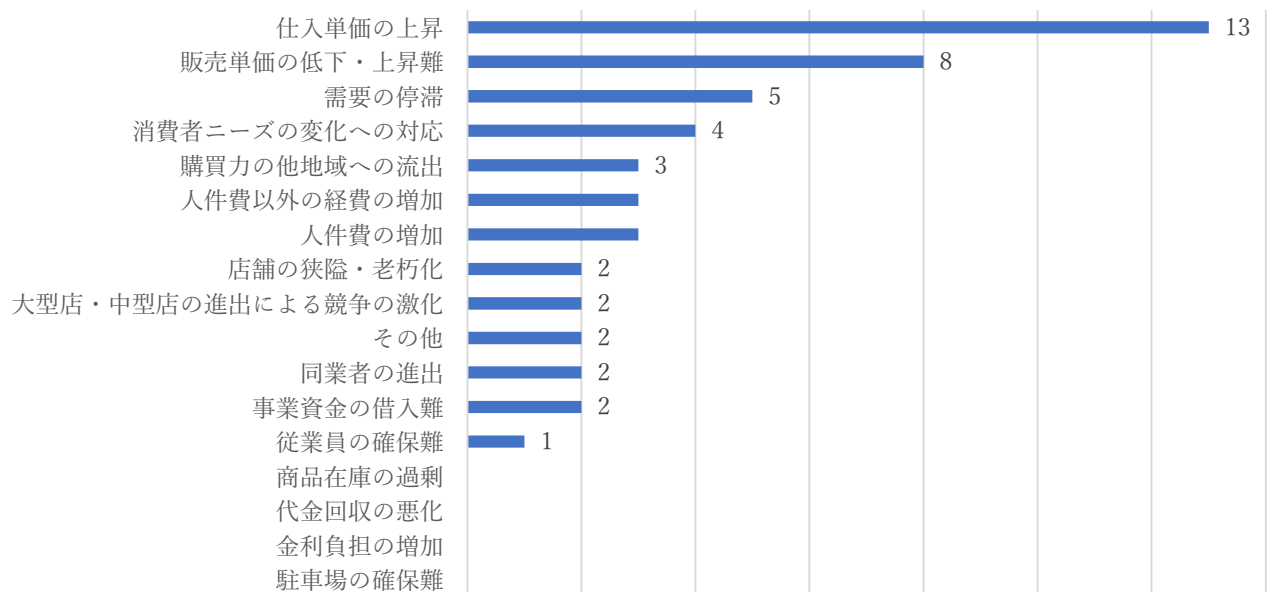
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題

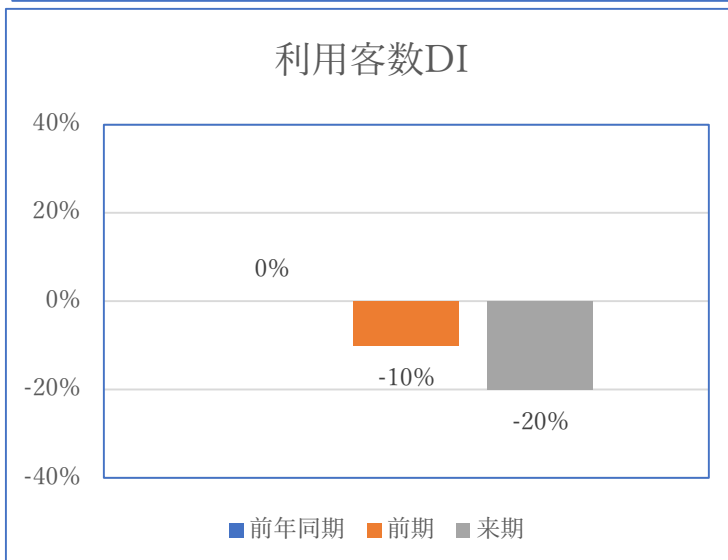
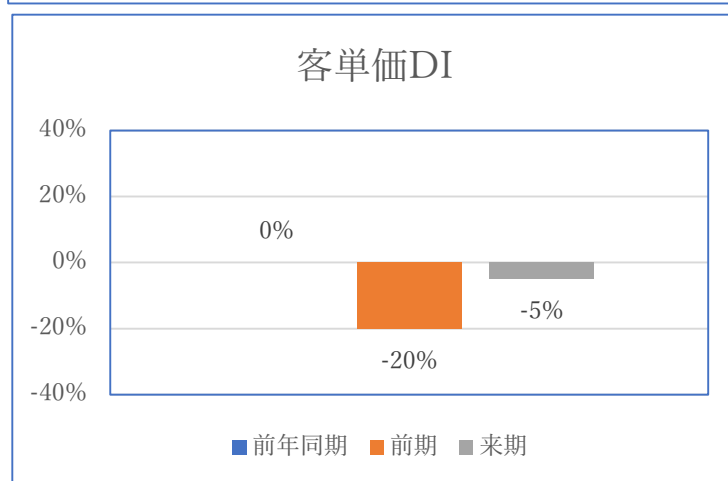
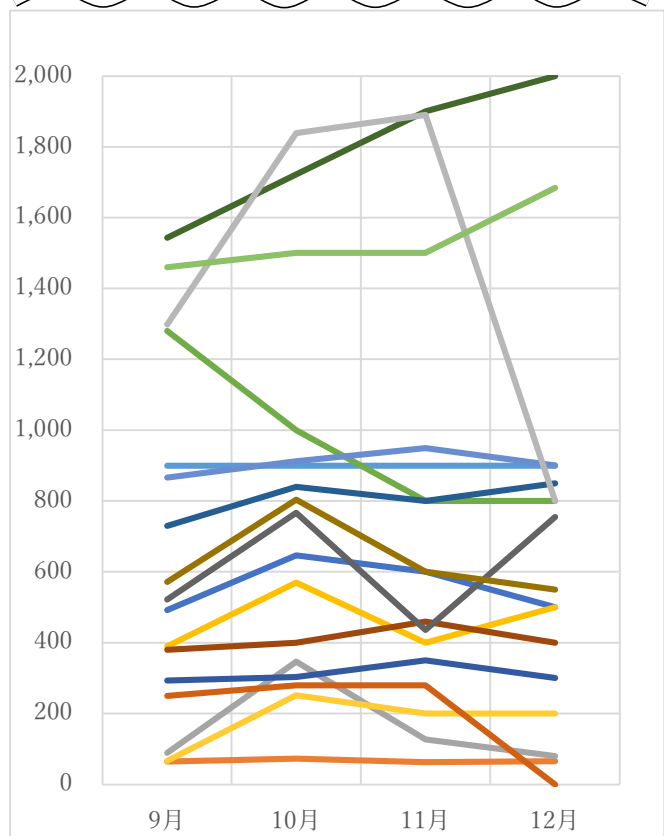
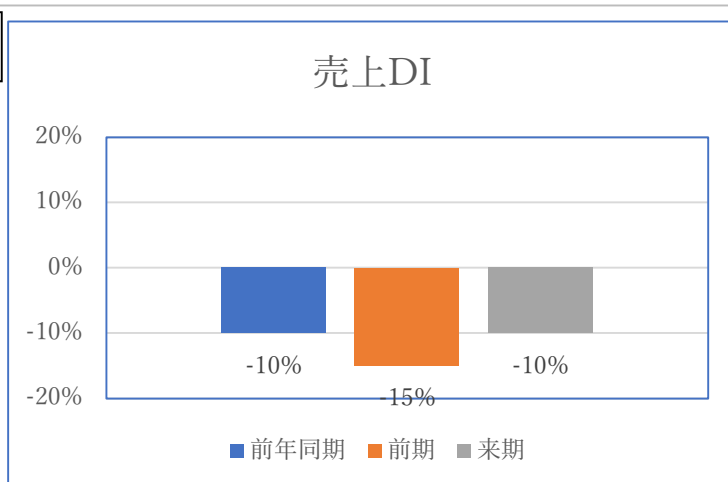
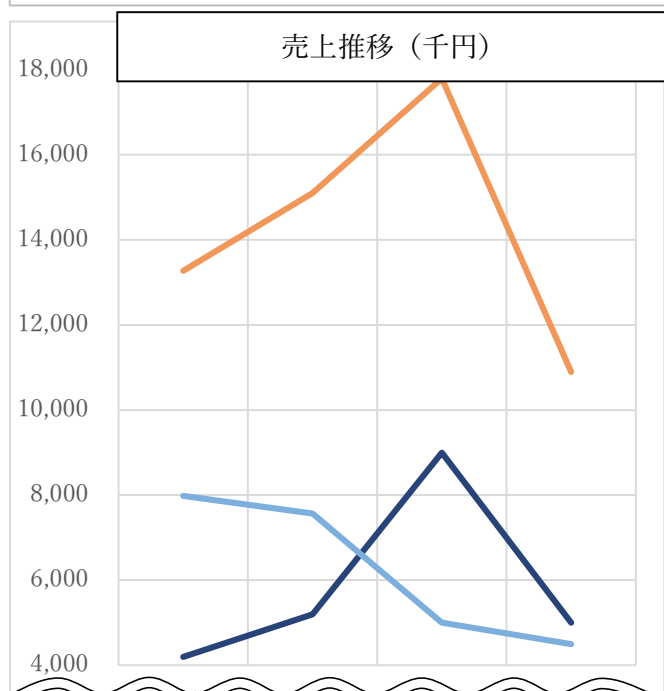


飲食宿泊業（2022 年 10 月～12 月）DI 値抜粋

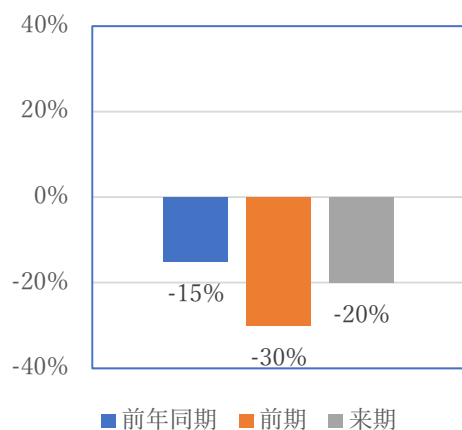
コメント

飲食宿泊業の業況に関するDIは、コロナ7波の影響から脱する力強さはない不透明な状況が続いている。売上DIは前年同期▲10と昨年から回復は乏しく、前期▲15と足元の売上は低迷、来期も▲10と先行き不安の声が多い。客単価DIも前年同期±0、前期▲20 夏場から低迷が続いている、今後の見通しも▲5となっている。客数DI前年同期±0、前期▲10、今後の見通しは▲20と先行きの見通しが厳しい状況である。資金繰りDIは前年同期▲15 前期▲30 来期▲20と足元の資金繰りが悪化している傾向が他業種と比較して顕著である。仕入単価の上昇が前年同期+85と原価上昇の状況が顕著で来期見通しも+65、採算も前年同期▲50とコスト増で悪化している。設備投資も引き続き低調である。

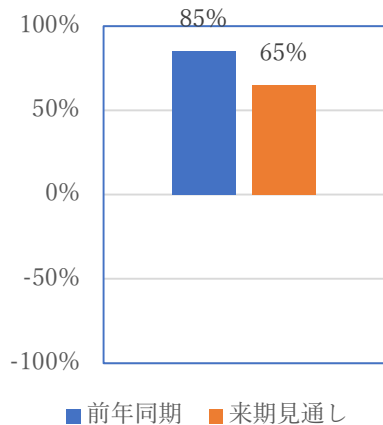
個別の声として、仕入れ価格が上って来ました。特に魚が高騰しています注文が少なくロスが多く利益がほとんどない。お客様は増加傾向にあるが、仕入額が上昇しているため、コロナ当でお客様が減少した際が不安である。宿泊に関しては、4月以降好調に推移しているが。サービス人員の不足と食材等の原材料費の上昇、電気、LPガス料金の高騰があり、収益への影響が懸念される。コロナもやや収束しているので旅行等国の支援政策等による人手の増加にともなう売上増が見込める。人々のコロナ慣れもあるが再拡大も懸念されているので不安定になるのはやむを得ない。といった声がある。



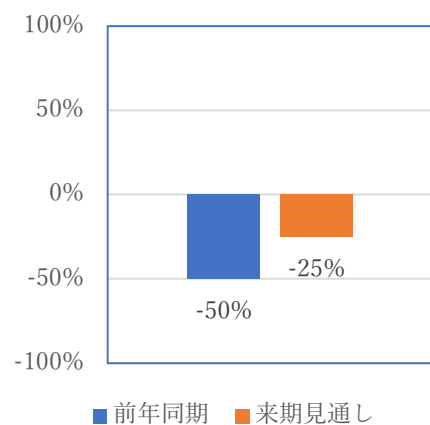
資金繰りDI



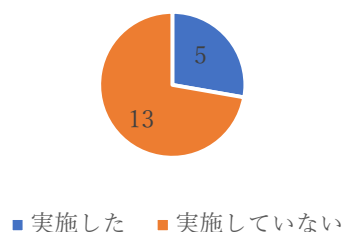
仕入単価DI



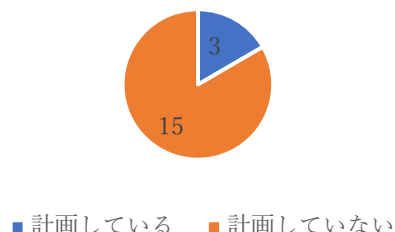
採算（経常利益）DI



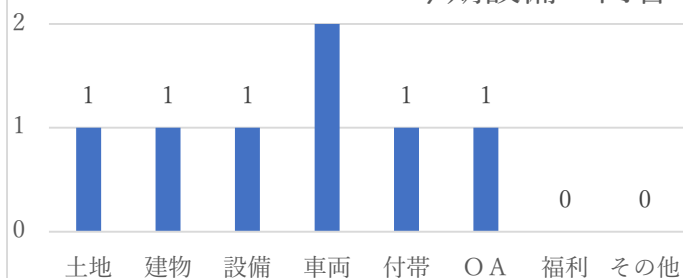
今期設備投資



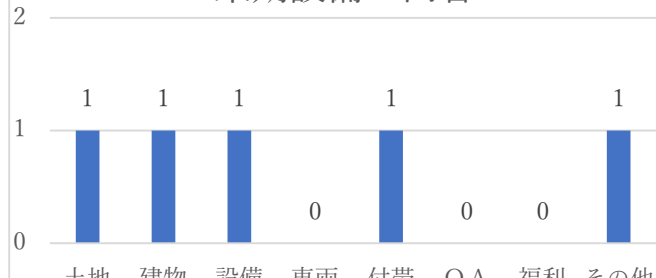
来期設備投資



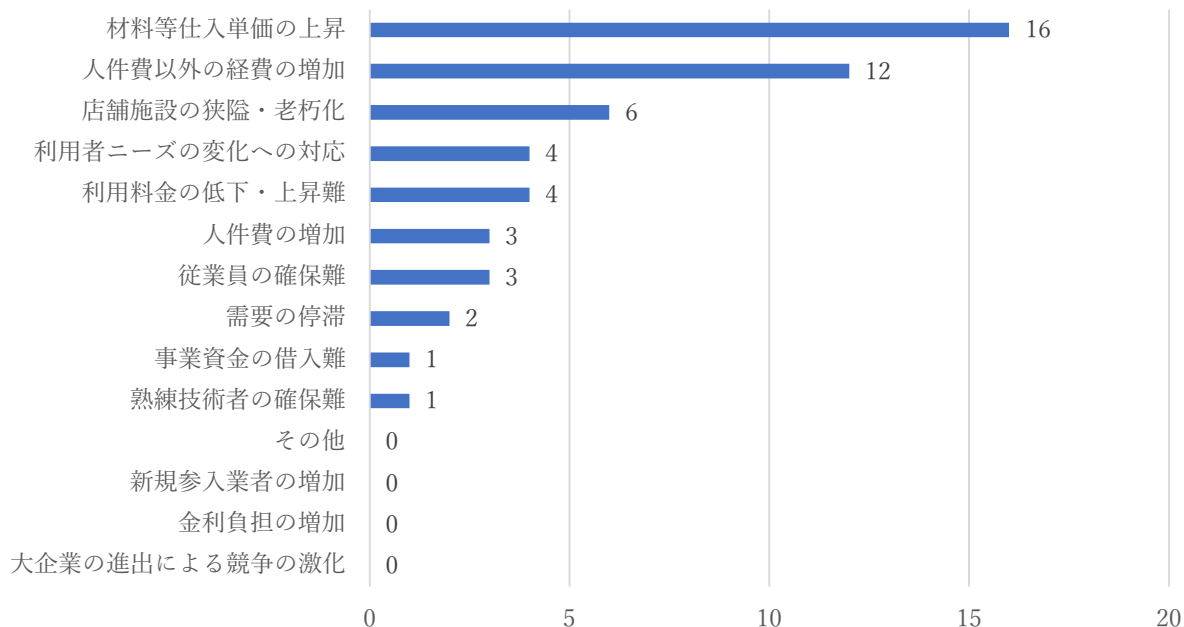
今期設備の内容



来期設備の内容



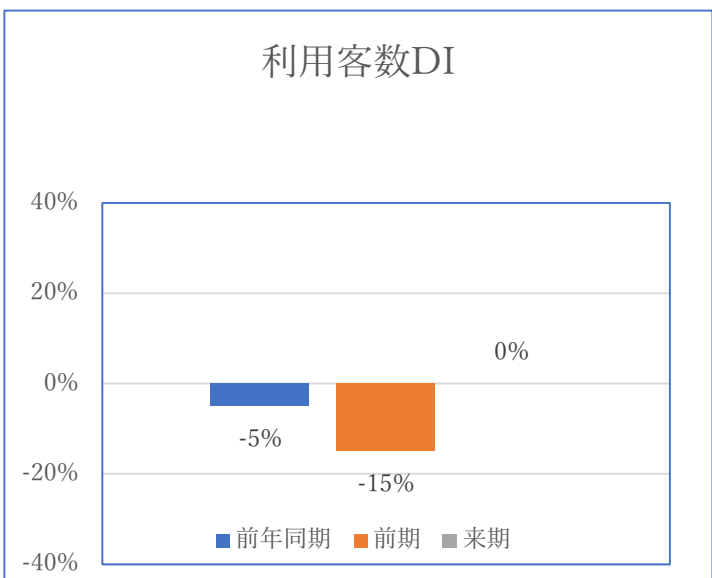
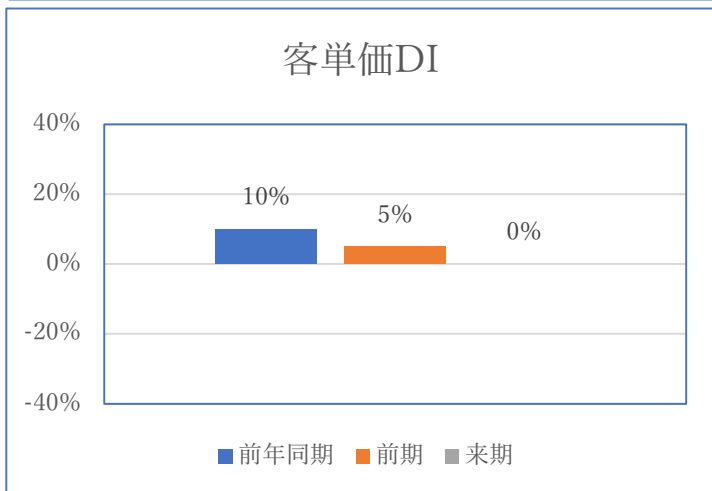
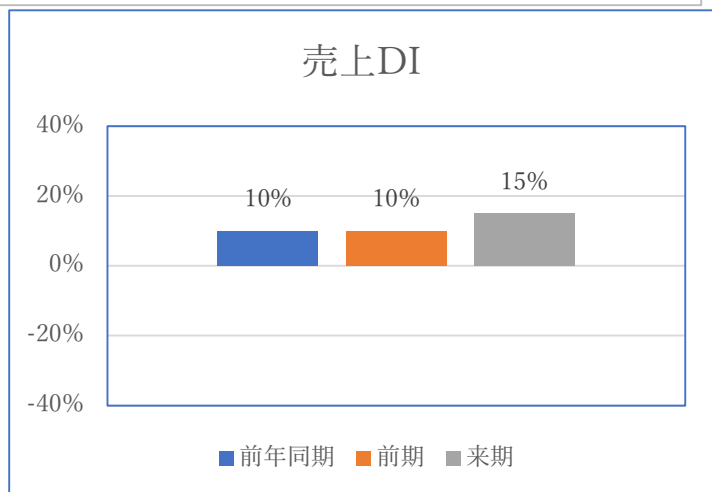
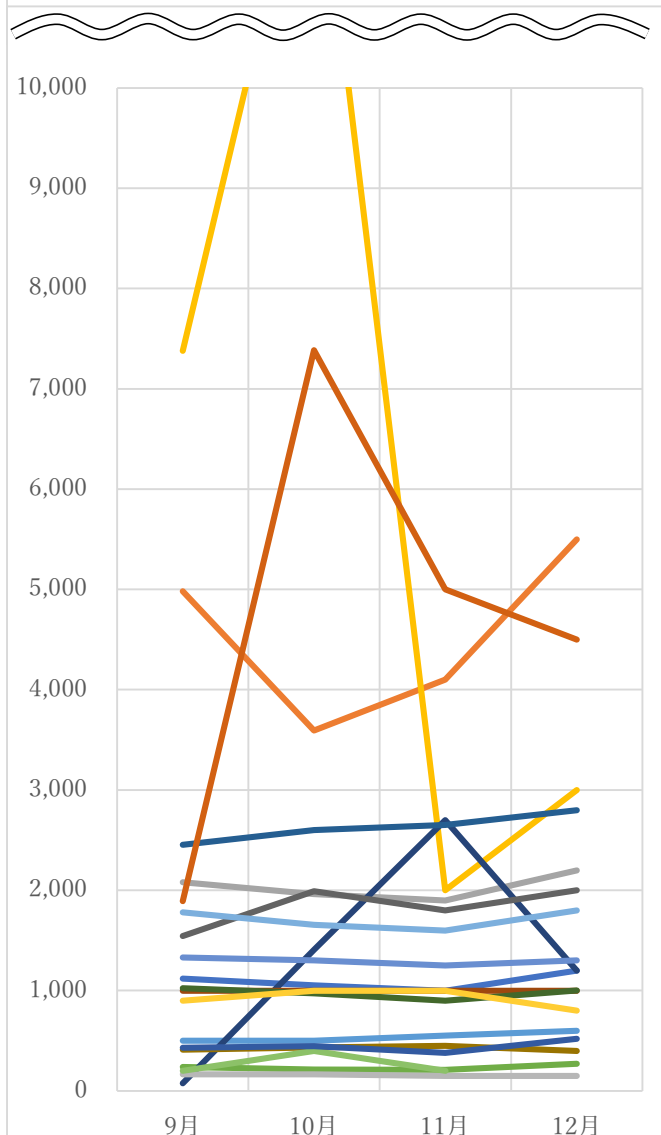
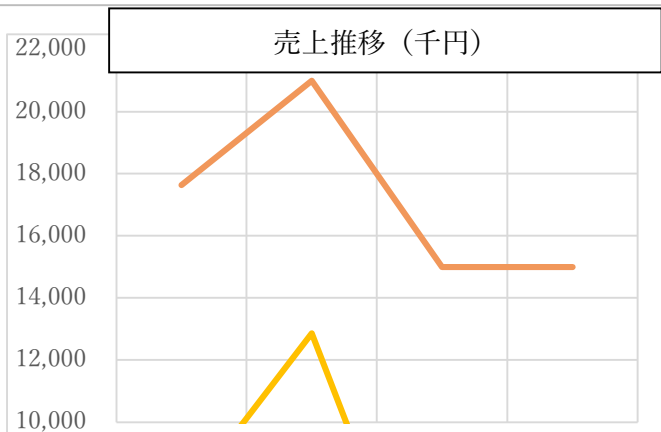
直面している経営上の課題



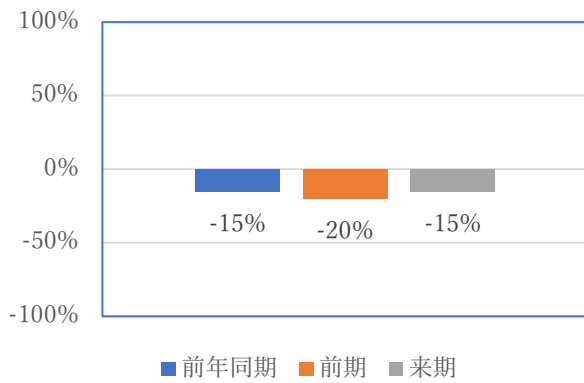
サービス業（2022年10月～12月）DI 値抜粋

コメント

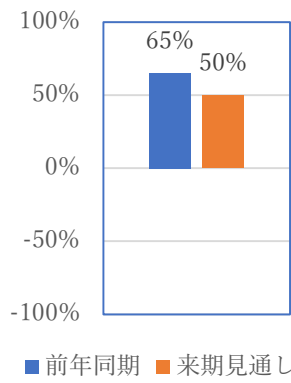
サービス業の業況は売上の持ち直し傾向はあるが、コスト上昇により厳しい採算状況が続いている。
 売上DIは前年同期+10、前期+10と第七波の収束で売上改善の傾向がある、来期見込みも+15と改善傾向である。客単価DIは前年同期+10、前期+5、今後の見通しも±0と下げ止まる感触である。客数DI前年同期▲5、前期▲15、今後の見通しは±0と低調である。資金繰りについて前年同期▲15、前期ともに▲20、来期▲15と厳しい声が多い。仕入単価DI前年同期+65 来期見通し+50と上昇傾向が続いている、採算DIは前年同期▲10、来期見通し▲20と売上回復が乏しい中で原価コスト上昇が小企業に採算面の影響を与えている。個別の声としては、円安ムードによる物価高の影響で客足が遠のいている。業界でも値上げの動きはなく、中々売り上げがあがらず忸怩たる思いである。閑散期だが、今年は長浜市の Pay Pay キャンペーンの恩恵を受け売上増加となった。このような施策は定期的に行っていただきたいコロナや物価高と、本年と同様に冬の雪が客足に影響が心配です。再度2月ぐらいに Pay Pay 支援を行ってほしいと思う。などキャッシュレス還元の効果実感と今後の継続を希望する声が聴かれた。



資金繰りDI

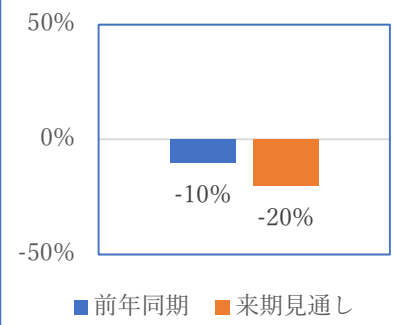


仕入単価DI

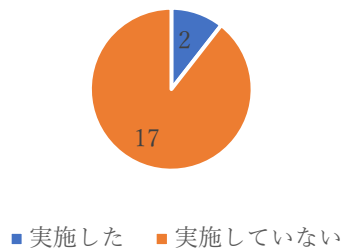


採算（経常利益）

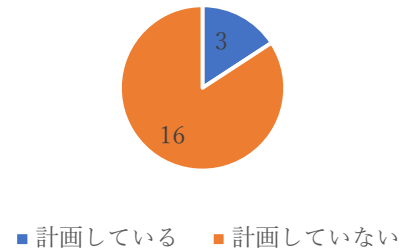
DI



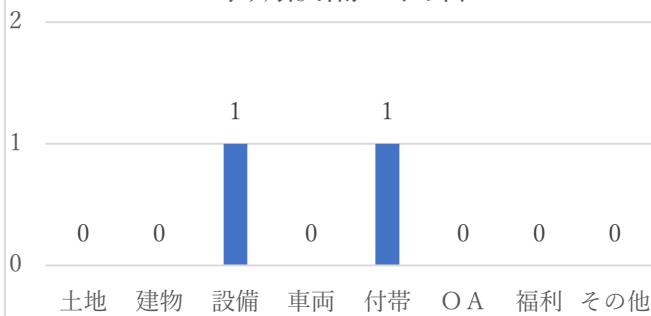
今期設備投資



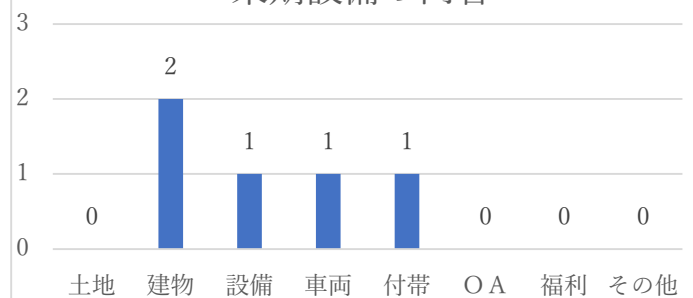
来期設備投資



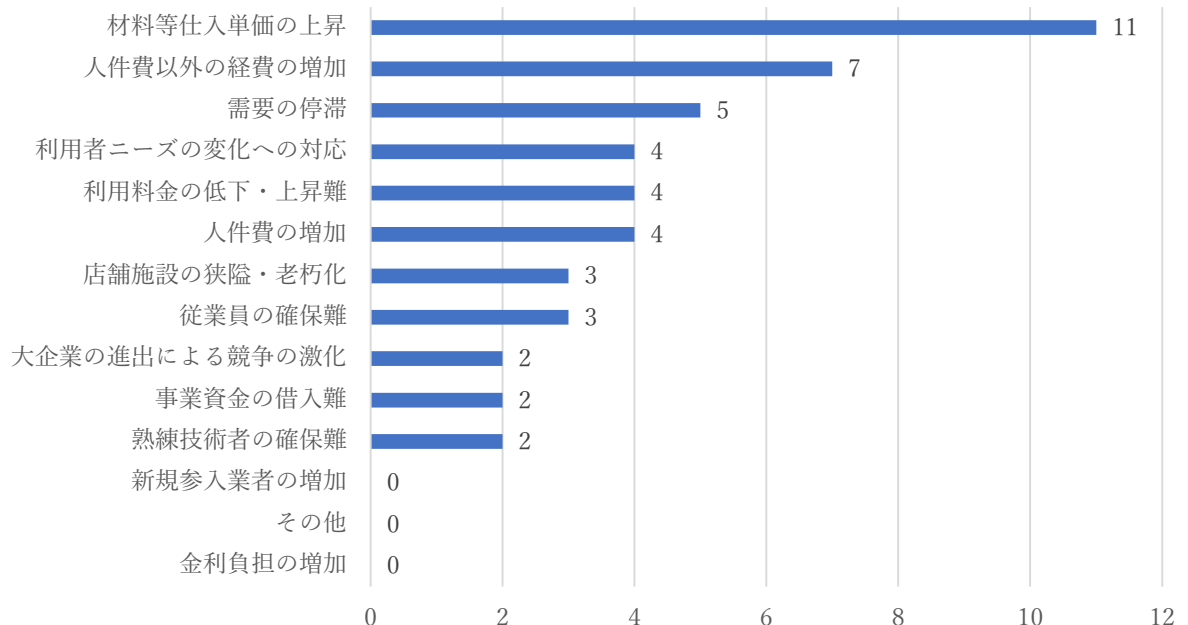
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題



小規模企業景気動向調査 [2022年10月期調査]

～深刻な原油・原材料費や物価等の高騰による、採算・資金繰り悪化に苦しむ小規模企業景況～

<産業全体> 深刻な原油・原材料費や物価等の高騰による、採算・資金繰り悪化に苦しむ小規模企業景況

10月期の産業全体の業況は、前期と比べ売上額DIがわずかに改善したものの、採算・業況DIが横ばいで推移し、資金繰りがわずかに悪化に転じた。新型コロナウイルスの水際対策の大幅緩和や全国旅行支援等により、観光業を中心にサービス業は売上DIが大幅に改善。一方、全業種で価格転嫁が進まず、コスト高で利益が見込めない、とのコメントが目立つ。また一部の業種で資金繰りにも影響が出始めている。

DI	9月	10月	前月比
売上額	▲40	▲22	18
採算	▲460	▲462	▲02
資金繰り	▲349	▲356	▲07
業況	▲305	▲301	04

<製造業> 改善傾向にあるものの、原材料費高騰等により資金繰りに影響が出始めた製造業

製造業は、全DIが改善した。食料品関連は、採算DIが低水準で推移しており、売上増加も原材料費の高騰で利益が残らない、とのコメントが多い。繊維関連は、冬物衣料の需要と、旅行等による外出機会の増加により、売上額・採算DIともに大幅に改善した。機械・金属関連は、2期連続で資金繰りが悪化。受注はあるが、資材等の入荷遅れが売上の停滞を招き、原材料費高騰で採算が悪化し、資金繰りに悪影響が出ている。

DI	9月	10月	前月比
売上額	▲37	▲11	26
採算	▲556	▲540	16
資金繰り	▲460	▲429	31
業況	▲375	▲348	27

<建設業> 深刻な人手不足による売上の停滞や資材高騰により、採算のとれない建設業

建設業は、採算DIが大幅に悪化、売上額・資金繰り・業況DIが小幅に悪化し、全DIが悪化に転じた。歯止めのかからない建設資材の高騰に価格転嫁が追いつかず、採算が悪化。慢性的な人手不足から思うように業績が伸びない、というコメントが多かった。一方、公共事業や災害復旧工事、冬場前の工事需要増加が業界を牽引し、以前に比べ資材の入荷や、納期遅れ等は改善されてきたというコメントも見られた。

DI	9月	10月	前月比
売上額	07	▲14	▲21
採算	▲481	▲539	▲58
資金繰り	▲344	▲378	▲34
業況	▲283	▲332	▲49

<小売業> 仕入値の高騰と消費者の購買意欲の鈍化から、資金繰りに苦慮する小売業

小売業は、売上額・資金繰りDIが小幅に悪化し、採算・業況DIは横ばいで推移。衣料品関連は、売上額DIがわずかに悪化した。昨年度同月と比較すると2桁pt超改善。食料品関連は採算DIが低水準で推移。特に資金繰りDIが直近1年間で最低の水準となった。売上は安定してきたが採算が低水準で停滞し、資金繰りにも影響を及ぼし始めた。耐久消費財関連は、資金繰り・採算DIが大幅に悪化し、直近1年間で最も悪化。物価高による消費の冷え込みや、半導体不足からの納期長期化と課題が多い。

DI	9月	10月	前月比
売上額	▲107	▲124	▲17
採算	▲506	▲508	▲02
資金繰り	▲377	▲403	▲26
業況	▲388	▲387	01

<サービス業> 観光客と外出需要の増加から、3期連続で改善が続くサービス業

サービス業は、全DIが改善し、特に売上額DIが大幅に改善した。旅館関連は、全DIが大幅改善、売上額DIは20pt近く上昇。訪日客の増加や全国旅行支援の効果が顕著に表れた。クリーニング関連は、売上額DIが大幅に改善も、3期連続で改善していた資金繰りDIが悪化に転じた。エネルギー価格高騰による固定費の上昇が資金繰りに影響を及ぼし始めている。理・美容は、売上額DIがわずかに改善するが、資金繰りDIが小幅に悪化。来客数がコロナ前水準まで戻らず、諸経費の高騰など悩みが続き、

DI	9月	10月	前月比
売上額	▲23	60	83
採算	▲299	▲262	37
資金繰り	▲216	▲214	02
業況	▲174	▲137	37

調査概要

・調査対象: 全国約300商工会の経営指導員

・調査時点: 2022年10月末

・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。